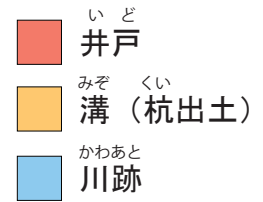


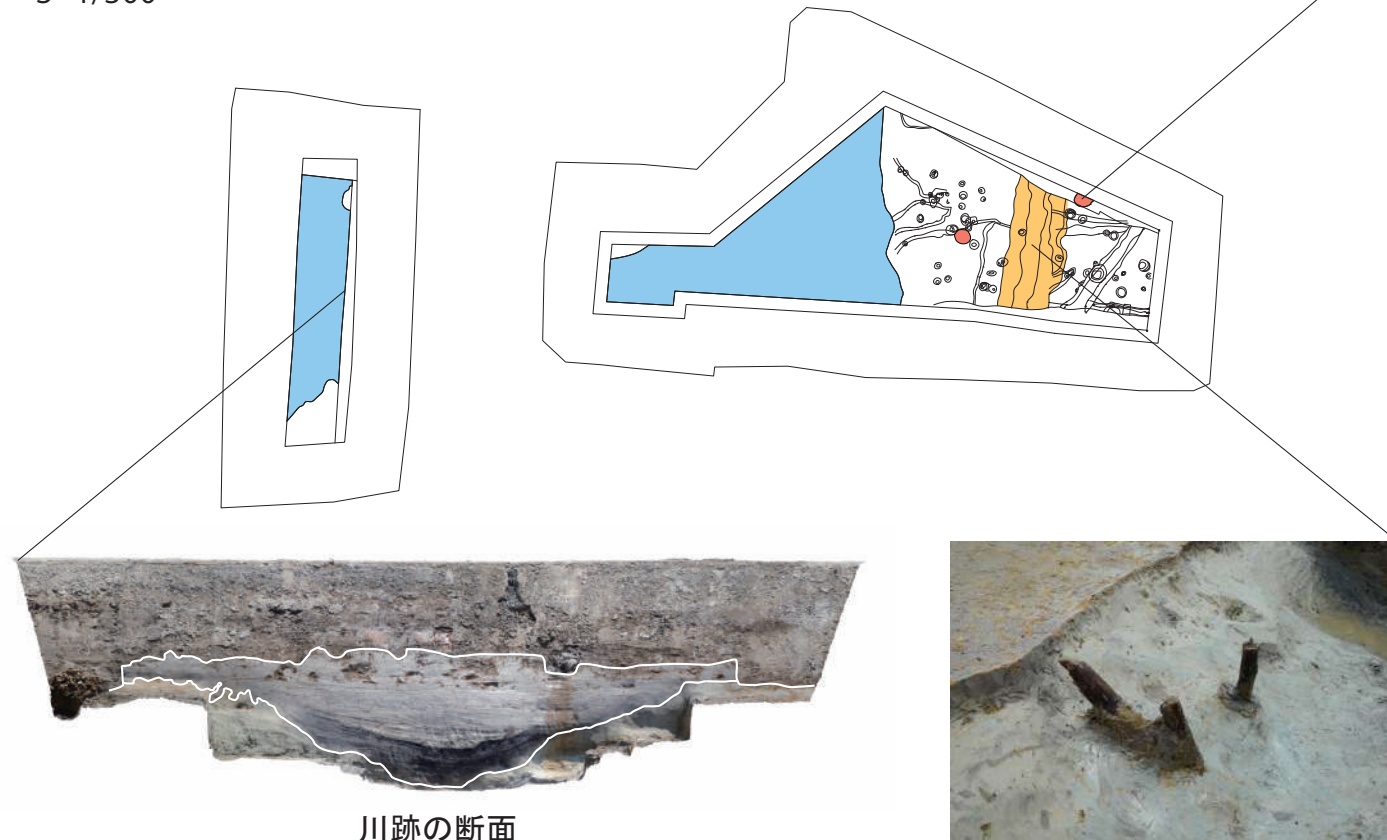
4 調査区③



S=1/300



みずため
井戸底で水溜に使
われていた曲物



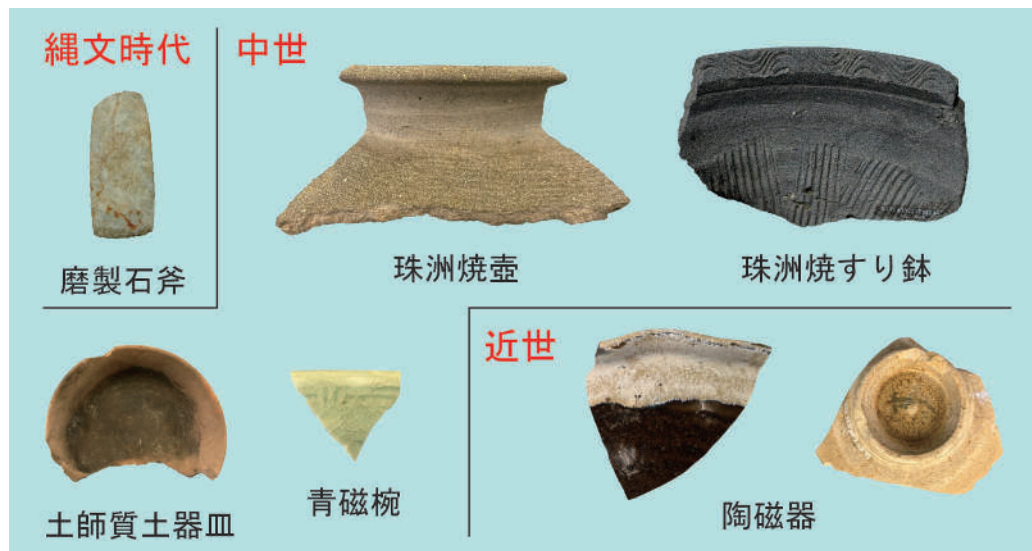
川跡の断面



溝に打たれた杭

5 今回の調査で出土した遺物

今年度の調査で出土した遺物は、縄文時代・古代・中世・近世のものがあります。縄文時代の遺物は磨製石斧が1点だけ出土していますが、混入品とみられます。古代の遺物は須恵器が少量ながら調査区③の川跡から出土しています。最も多く出土した遺物は中世のもので、土器と木製品です。土器は素焼きの土師質土器、能登産の珠洲焼、中国産の青磁などがあり、14・15世紀が中心と考えられます。木製品は井戸から多く出土しており、漆器・下駄・箸・曲物など様々な種類があります。また、火を起こす道具である火きり臼もあります。近世の遺物は肥前産の陶磁器が主です。



柏崎市 丘江遺跡（14次） 遺物展示会資料



火きり臼とひしゃく

令和8年9月12日（土）

柏崎市茨目三丁目 丘江遺跡発掘調査事務所

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 遺跡の概要

丘江遺跡は柏崎平野の中央に位置し、鯖石川左岸の微高地上（標高6～7m）に広がっています。国道8号柏崎バイパス事業に関連して長年発掘調査が行われてきましたが、今回の調査でとうとう最終段階を迎えました。遺跡の主体時期は中世の鎌倉時代から室町時代（13世紀～15世紀）で、第14次調査区はその頃の集落であったと考えられます。丘江遺跡では大きく分けて南側の居住域（建物跡・井戸・土坑などで構成）と北側の生産域（水田）が把握されています。また近年注目された「金箔が押された木製塔婆」や石造物を利用した階段状施設などもみつかっています。この他、主体時期以外の出土遺物に縄文時代後期・弥生時代後期・古代（9世紀）・近世（16世紀末以降）があり、長期にわたって人々の痕跡が確認されました。集落の近くには同時期の仏堂や墓跡が見つかった田塚山遺跡群と小児石遺跡があります。遺跡は越後国鵜河荘安田条内に位置し、安田条を支配していた安田毛利氏との勢力関係が注目されます。

今年度は中世集落域の一部を調査し、調査区①～③区（仮称）に分かれます。各調査区では掘立柱建物・ピット・土坑・井戸・溝が見つかっています。調査区①と調査区②では集落内を区画すると思われる溝と多数の井戸があります。調査区③では川跡と多数の杭が伴う溝が見つかりました。

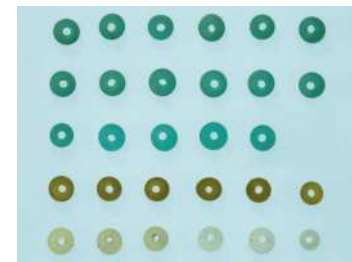


第14次調査区の空撮写真（西から撮影）

2 遺跡全体図



遺跡北側の水田



ガラス製数珠玉 (直径約4mm)

もくせいとうば
木製塔婆
1号(長123cm)
2号(長135.5cm)
3号(長38.8cm)



1号



2号

3号



もくせいじゆずだま
木製数珠玉

ごりんとうぶざい
かいだんじょうしせつ
五輪塔部材などを用いた
階段状施設

溝で方形に
区画された
屋敷地

第14次
調査区③

第14次
調査区②

展示会
会場

第14次
調査区①



うるしぬ したながあぶみ
漆塗り古長鐙 (馬に乗る時の足かけ)

第13次調査区
(R8報告書刊行予定)

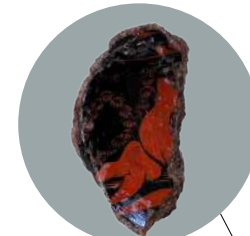
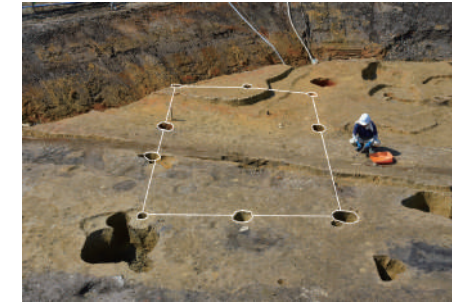
↑生産域
↓居住域

0 100m

ぼくしよ
墨書かわらけ

3 調査区①・②

ほったてばしらたてもの
掘立柱建物



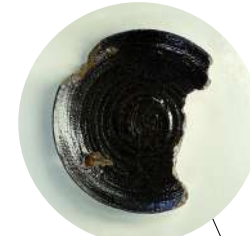
しつき わん
漆器 椀



ひきりうす ひしゃく
火きり臼と柄杓



はし
箸



こざら
小皿

く かくみぞ
区画溝
い ど
井戸

S=1/300

調査区②

調査区①

まげものそこいた
曲物底板



さら
皿



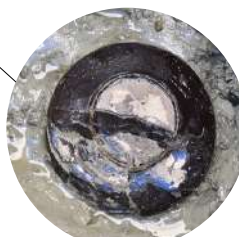
い ど
井戸



い ど
井戸



げ た
下駄



しつき わん
漆器 椀